

函館

2010年2・3月 第10号

ハリストス正教会



発行者：函館ハリストス正教会 司祭ニコライ・ドミトリエフ
〒040-0054 函館市元町3-13

TEL(0138)23-7387/FAX (0138) 23-7939

編集者：会報編集委員会 郵便振替 02660-5-1721

聖師父の教えより（第三回）

— 大齋 について —

今年の復活祭(4月4日)に備え、2月15日(月)から大齋が始まります。

一年間を通して正教会が定めている数々の「齋」の中ものいみでも、「大」がついて「大齋」と呼ばれるのは、復活祭前の齋だけです。それは、期間が最も長い齋であるということだけでなく、それを行う意義が重要であることを表しています。

齋には二つの側面があり、両方をバランス良く行うことが大切です。

一つは「肉体的な齋」。肉類、乳製品、卵を断ち、肉体的に節制すること。

もう一つは「聖神^o的な齋」(=靈的な齋)。忿怒、妬み、誇り、見栄、傲慢など罪となる思いを退け、忍耐を学ぶこと。

サロフの克肖者聖セラフィムは、次のように教えています。

「齋や祈祷など教会で定めている規則は、それ自身が目的なのではない。これらは全て聖神^oの恩寵を得るための手段なのである」。

つまり、齋は人間の霊の救いのために薦められているものであり、人間が齋のためにあるのではないということ。人間の肉体的、聖

神^o的な力は人さまざまですから、自分の力以上の齋を科すことは、霊にとってプラスになりません。また、「肉体的な齋」を完全な形で行ったとしても、その本来の目的である「霊の救い」を忘れていると、自分の心の中に傲慢な気持ちを

生み出す誘いいざなとなる場合があります。この傲慢は、齋を守っ

ていない人に対する軽蔑や非難の心を生み出し、行っていることは結果として「ダイエット」以外の何ものでもなくなります。「聖神^o的な齋」とのバランスが不可欠なのです。

自分の行っている齋が正しいものであるか



▲「荒野のハリストス」
クラムスコイ画(ロシア)

どうか、極端に陥っていないか(怠慢になっていないか、又は自分勝手な禁欲に走っていないか)ということについてチェックを行う場——それは痛悔機密です。普段よりも自分の霊の中を注意深くチェックし、自分の信仰生活の在り様について、必要があれば軌道修正しましょう。

《「人生の十分の一」の齋》

歴史的に見ると、復活祭前の大齋については第一回全地公会(325年、ニケヤ)において、これをしっかりと守らなければならない旨が議論されていることから、既にこの頃にはハリスチアニンの信仰生活の中に大齋が根付いていたことが分かります。

正教会において復活祭の前に大齋を行うようになった理由は幾つかあります。私たちの教会かしらの頭である主ハリストスが荒野において40日間齋されたことに倣う意味がありますし、復活大祭という正教会において一番重要な祭日を迎えるために相応しい霊の準備をする意味もあります。そしてさらに、人生の十分の一の日々を普段より熱切に祈祷と齋に奉げるという意味があります。このことについて聖師父ドロフェイは次のように教えています。

「律法において神はイズライリの民に毎年得た収入の中から十分の一を神殿に奉げるように命じた。彼等の業が神によって祝福されるように。私たちは、神が私たちの業を祝福し、私たちが罪から潔めてくれるように、自分の人生の日々の十分の一を神に奉げるのである。復活祭前に齋する7週間は、土曜日と日曜日を除くと35日(奉神礼的には土曜日と日曜日は齋として数えない。)。しかし聖大土曜日は特別な齋であるので1日プラスし、復活祭当日の夜を半日とすると36.5日となり、一年間365日の丁度、十分の一を私たちは齋のうちに過ごすこととなる」。

人間にとって365日毎日、同じ緊張感を保ち続けて痛悔と祈祷を行うことは難しいことです。日々の仕事や家庭のことなど、社会において果さなければならない責任もあります。しかし、そ



◀ 大齋のアイコン

大齋期間に記憶される出来事が一枚のアイコンに表されている。〔聖枝祭(12大祭)は別〕。

上段: 正教勝利の主日(大齋第一主日)

中段左: 聖グリゴリイ・パラマの主日

(大齋第二主日)

中段中: 十字架叩拝の主日(大齋第三主日)

中段右: 階梯者聖イオアンの主日(大齋第四主日)

下段左: エジプトの克肖女聖マリヤの主日

(大齋第五主日)

下段右: ラザリのスポタ(聖枝週土曜日)

また、このアイコンの配置から、「十字架叩拝の主日」が大齋の中心的意義を持っていることが分かる。

れは、日々私たちに生命を与え、日々の業を行うことを祝福してくれる主・神のことを全く思わなくても良い理由にはなりません。主・神の私たち人間に対する忍耐と慈憐に感謝し、自分の弱さを悔い改め、祈る時間として「人生の十分の一」は決して多すぎることはありません。大齋期間を怠惰に過ごすことなく、可能な時には晩堂大課や先備聖体礼儀などのご祈祷に参拝しましょう。

聖イグナティ・ブリアンチャニノフは大齋期の信仰生活について次のように教えています。

「齋とは畑を耕すこと。祈祷とはそこに種を播くことである。両方のことを正しく行ってこそ、実りを得ることができる」。

「畑」は私たちの「霊」です。畑で汗を流して働くように、霊という畑においても霊的作業を行うことが不可欠です。罪という雑草を取り除き、聖神^oの恩寵に満ちた祈りの言葉で肥料を与え、善と悪の仕分けに忠実であることなど行うべき作業は尽きません。

主・神が私たちに力を与えられ、実り豊かな大齋を過ごすことができますように。

(司祭ニコライ・ドミートリエフ)



教会のロシア語

教会のロシア語・ワンポイントレッスン

けいていしまい
= テーマ: 「兄弟姉妹」 =

けいてい ブラート
兄弟 брат

しまい シストラ
姉妹 сестра

けいていしまい ブラーチャイ イ セーストルイ
兄弟姉妹 братья и сестры

正教信徒は皆、「天の父」である主・神ハリストスの子どもですから、私たちは互いに兄弟姉妹であるという意味で、ロシア語では男性信徒に対してはブラート **брат** (日本語では「兄」という呼称を用い、女性信徒に対してはシストラ **сестра** (日本語では「姉」という呼称を用います。

(※日本正教会用語では、一般の日本語で用いる「兄弟姉妹」ではなく、「兄弟姉妹」と発音しますが、ロシアでも現代ロシア語で使うショーストルイ **сёстры**ではなく、教会スラヴ語のセーストルイ **сестры** を使います)。

ブラート イオアン シストラ ニーナ
[**брат Иоанн**]、[**сестра Нина**] のように聖名と共に用います。

日本語では、「イオアン兄」という言い方もできますし、「イオアン中村兄」という言い方もできます。苗字だけとって「中村兄」という言い方もありますが、本来聖名に用いる呼称ですから、できれば聖名を省かないほうが適当です。年齢に関係なく、洗礼を受けていれば子供でも「兄」、「姉」を付けることができます。呼称と言っても敬称のニュアンスがありますから、自分の名前に付けることはできませんし、また、身内の人間に用いると稀に不具合な場合があります。

セラフィム主教座下叙聖10周年記念

1月17日(日)、仙台正教会に於いて催された、セラフィム主教座下の主教叙聖10周年記念の祝賀に、函館正教会を代表しニコライ松井執事長が出席した。

この日に行われた神現祭聖体礼儀及び大聖水式は、ロシア正教会ポドヴォリエのニコライ・カツバン神父様、東日本主教々区宗務局々長のマルコ小池神父様、クリメント児玉神父様、加藤神父様が陪祷。祈祷後、セラフィム主教座下には、ダニイル府主教座下とモスクワ及び全ロシアの総主教キリル聖下からのパナギヤが贈られ、教区を統轄し教勢発展に尽力下さるセラフィム主教座下のご健勝を祈念し、参集した東日本主教々区の信徒等160名の「幾年も」が堂内に響き渡った。

会館での祝賀会は、各正教会からの祝辞が続く中、仙台正教会信徒等による余興もあるなど、終始和やかな雰囲気ですセラフィム主教座下をお祝いました。



▲ご挨拶されるセラフィム主教座下



▲「この水を聖にせよ」

《ロシア料理教室》

11月21日(土)、信徒会館厨房にてロシア料理教室が開かれた。今回のメニューは「ミート
スープ スフリカデーリカミ
ボールのスープ(“Суп с фрикадельками”)」。

ロシアン・クレープを添えて、22日(日)の主日昼食会に皆で頂いた。ロシアの煮込み料理は「翌日が美味しい」のがポイント。

《降誕祭に備えて》

12月6日(日)、信徒学びの会の後、婦人会と男性信徒等の協力を得て、正門や会館前に飾られる5つのリース作りが行われた。緑鮮やかなヒバを使い、手分けしてリボンやオーナメントを付けるとクリスマスの雰囲気溢れるリースが出来上がった。会館玄関ポーチでは教会学校の子供達がツリーの飾り付けをし、祝賀会用の舞台も用意された。

翌週の13日(日)には、代式祈祷の後、聖堂内と信徒会館の大掃除が行われ、燭台やアーチ窓も綺麗になり降誕祭の準備が整った。



▲ どうぞ召し上げれ！



▲皆で力を合わせて

降誕祭祝賀会

12月20日(日)、主日聖体礼儀の後、信徒会館にて一足早く降誕祭祝賀会が開かれた。食事の後はお待ちかねの余興タイム。教会学校の子供達は、主のご誕生をペープサートで発表。聖歌隊のスラブ語聖歌やロシア語の可愛い詩文暗唱、アキラ大村兄のクリスマスソング、松井執事長による脳内活性を高めるゲームなどで楽しんだ。子供も大人もプレゼントを受け取る瞬間は笑顔いっぱい。喜びと感謝の気持ちを分かち合っただけで会は盛会の内に終わった。



《市民クリスマス》

函館正教会では、例年12月24日に「市民クリスマス」を行っている。市民の皆さんに聖堂に来て正教会の祈禱に参加し、正教会聖歌を聴いて頂く機会として位置づけている。今年も12月24日(水)、聖堂にて「市民クリスマス」を行った。

今年の「市民クリスマス」の聖歌については、アキラ大村義美先生と友人の皆さんのご協力を得たおかげで、日本語聖歌と教会スラブ語聖歌を織り交ぜ、四部の重厚なハーモニーが聖堂内に響いた。

この日のために、11月後半から毎週月曜日の夜7時から9時を臨時の練習時間として設け、文字通り「特訓」。連日吹雪の中、一日の仕事が終わった後、誰も不平を言わず定刻に集合し、時間一杯一心に練習した。成果は確実に結果に現れたが、これで完成した訳ではない。むしろようやく次のステップへの第一歩を踏み出したというところであろう。今回の「市民クリスマス」で技術的、精神的にスキルアップできたものを今後どのように繋げていけるかが課題である。(スヴェトラナ山崎瞳 記)



▲北海道新聞より

《聖堂公開奉仕者勉強会》

12月26日(土)、日頃聖堂公開を担当している奉仕者及び関係者の勉強会を行った(参加者12名)。函館正教会は冬期の二、三ヵ月を除き、殆ど毎日聖堂公開を行っており、この活動を支えているのは信徒の奉仕である。全国から訪れる多くの拝観者への対応について教会としてどのような形が相応しいのか、奉仕者が理解しておくべきことについて管轄司祭より資料に基づいて話があった。

資料の冒頭には「拝観者にとっては文化財見学であっても、案内者は信徒であり、聖堂は主・神の家です。聖なる場所にふさわしい対応を心がけましょう」とあり、「聖堂にふさわしい行動がわからない人を見ても、すぐに注意・叱責するのではなく、隣人愛をもって話しかけましょう」として具体例が挙げられた。また、聖堂公開担当者が拝観者の全ての質問に対応しなければならないわけではなく(人生相談など)、神父さんと話すように促すことで奉仕者の役割にけじめをつけることにも触れられた。また、よく受ける質問の対応として、歴史、建築、イコン、八端十字架、キリスト教諸派との関係などの説明例が示された。中居伝教者からは、言葉遣いやマナー、事務的事項など日頃より気がついている点について指摘があった。

最後に、「聖堂公開の目的は、正教について、または函館正教会について、拝観者に明るく温かいイメージを抱いてお帰り頂くこと」であることを全員で再確認した。

新年感謝祈祷・新年会

12月31日(水)午後11時50分、逝く年への感謝を込め、また1月1日午前11時、来る年への希望を込め、聖堂にて新年感謝祈祷を行った。

1日はご祈祷の後、信徒会館にて持ち寄り新年会。それぞれに趣向凝らした逸品がテーブルに並び、参加者は一人ひとり新年への抱負を語り、和やかな新年会となった。イオシフ落合“シェフ”の活躍が顕著であった。



▲今年もがんばりましょう！

《麓先生来函》

1988年の函館正教会大規模修復の折、財団法人文化財建造物保存技術協会の設計監理事務所長としてお世話になった麓和善先生(現、名古屋工業大学大学院教授)ご夫妻が、1月4日(月)、来堂された。麓先生は、日頃より大学の研究室にて先生の指導の下で研究している学生ら10名を連れて来られた。先生が若い頃に修復を担当した函館ハリストス正教会と旧函館区公会堂を見学したいという学生たちの希望に因り、冬休みを利用しての来函となった。学生たちは全国の文化財建造物を調査のために訪れることが多く、また将来、文化財修復の道に進む者もいるとのこと。学生たちは聖堂内にて先生から修復に関する説明を受けた後、聖堂を見学した。

先生は、聖堂内の木目の細部まで熟知されており、自然の木目と書かれている木目があること、窓枠の緑色のニュアンスをどのように選定したか、また花ゴザの模様は型(岡山で作成)を抜いて着色したことなど貴重なエピソードを沢山披露して下さいました。

先生の文化財に対する誠実な熱意と専門家ならではのアカデミックなアプローチに圧倒魅了されたひとときであった。



▲麓先生(ニコライ神父の左)

《神現祭及び大聖水式》

1月17日(日)、聖堂にて神現祭と大聖水式が行われた。

ロシアでは「神現祭の厳寒」という言い方があるが、今年も神現祭の頃の寒さは格別。

聖体礼儀の説教の中でニコライ神父は、主ハリストスがイオルダン川に現れた時の前駆授洗イオアンの謙遜と従順に触れ、私たちハリスチアニンにとっては、「神を畏るる心」を

もって従順に教会の奉仕に携わる姿勢の模範であると語った。

昨年の大聖水式には大村義満家(上磯)が七飯から汲んで来てくれた名水を用いた。今年には坂下執事長(上磯)が八雲から汲んで来てくれた名水を用いている。



▲降り注ぐ神・聖神^oの恩寵

婦人会

お当番さん、宜しく願いいたします！

◎2月のお当番 …入間川恵美子姉・加藤きくえ姉・下田節子姉(昼食準備は2月7日、28日)

◎3月のお当番 …斉藤千代姉・門間郁子姉(昼食準備は3月7日、21日)

画像



上磯ハリストス正教会だより

パニヒダ

11月28日(土)、聖堂にてステファン坂下武夫兄の一年祭が行われた。

年の初めの聖体礼儀

1月10日(日)、上磯正教会において今年初めての聖体礼儀が行われた。上磯正教会では、例年1月最初の聖体礼儀の日に降誕祭を祝い、降誕祭祝賀会と信徒総会を行う。この時期に祝う降誕祭は、ロシアの教会カレンダーとほぼ同時期で、ニコライ神父も心なしかアットホームな雰囲気。降誕祭祝賀会では、イオフ馬場神父様のクイズ(景品付き!)に大人も子供も一緒に参加。一つひとつに丁寧な説明があり、クイズとは言え、しっかりお勉強しました。信徒総会では、予算・決算など議案が全て承認された。



▲2010年、気持ちも新たに

降誕祭後の廻家祈祷

1月15日(金)、20日(水)、21日(木)、降誕祭後の廻家祈祷を行った。上磯正教会の管轄司祭になってから二年目の廻家祈祷。昨年より事情がわかってきた分、距離感も縮まる。信徒間でお互いに日時を調整したスケジュール表を作成してくれたおかげで三日間でスムーズに廻れたことに感謝です。(ニコライ神父)

2・3月の聖名祭

(聖名日が2月の方は2月7日、3月の方は3月7日に行います)
聖体礼儀に引き続き行いますので、該当する方は是非ご参拝下さい。

聖名祭	聖名	氏名			
2/12	グリゴリイ	吉川真倫			
18	アルカディ	源生悟郎			
16	ニコライ	島田 智	馬場麟太郎		
	シメオン	宮崎義人			
	アンナ	落合君子	島田重子	鈴木真紀	鈴木陽子
		西村ゆき	森もと子	森影佳子	倭園子
3/19	アルカディ	佐藤智美			
22	キリール	森 征一			
23	キリール	金曾民雄			

2月の奉事・行事予定

2/6(土)	函館	17:00	断肉の主日前晩祷 福音経:マルコ16:1~8
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
7(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	断肉の主日聖体礼儀 第2調 誦経:吉川兄 使徒経:コリフ前8:8~9:2/福音経:マトフェイ25:31~46 ※聖体礼儀の後、2月の聖名祭モレーベンを行います ※ご祈祷後、聖堂のアナロイ掛を黒にかえる作業を行います ※肉類を食する最後の日
		13:00	信徒学びの会/婦人会/教会学校
※ 8日(月)より復活祭まで肉類を経つ ※ 8日(月)~13日(土)までマースレニツア(乾酪週間) 水曜日・金曜日を含めて乳製品、卵を食することができる			
13(土)	上磯	19:00	断酪の主日、主の迎接祭、亜使徒日本の大主教聖ニコライ祭徹夜祷
14(日)	上磯	10:00	断酪の主日、主の迎接祭、亜使徒日本の大主教聖ニコライ祭聖体礼儀 聖体礼儀の後、「赦罪の晩課」を行います ※函館正教会は代式祈祷ですが、「赦罪の晩課」は上磯正教会にて行われるため、函館正教会信徒の方も、是非ご参拝下さい
		13:00	婦人会総会
	函館	10:00	断酪の主日、主の迎接祭、亜使徒日本の大主教聖ニコライ祭代式祈祷 第3調 代祷:下田兄/誦経:中居兄 使徒経:ロマ13:11~14:4/福音経:マトフェイ6:14~21
		11:00	聖歌練習
15日(月)より【大斎第一週】			
15(月)	函館	10:00	早課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖アンドレイの大カノン)
16(火)	函館	10:00	早課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖アンドレイの大カノン)
17(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		17:00	晩堂大課(聖アンドレイの大カノン)
18(木)	函館	10:00	早課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖アンドレイの大カノン)
19(金)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		17:00	早課
20(土)	函館	10:00	時課・聖金ロイオアンの聖体礼儀(聖フェオドル・ティロンの記憶)
		17:00	主日徹夜祷 福音経:ルカ24:1~12
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
21(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	大斎第一主日(正教勝利の主日) 第4調 聖大ワシリイの聖体礼儀 誦経:中居兄 使徒経:エウレイ11:24~26、32~12:2/福音経:イオアン1:43~51
		13:00	聖歌練習

2月22日(月)より【大齋第二週】			
23(火)	函館	17:00	晩堂大課
24(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
25(木)	函館	17:00	晩堂大課
26(金)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		17:00	パラスタス
27(土)	函館	10:00	聖金ロイオアンの聖体礼儀／リテヤ(永眠者の記憶)
		13:00	イースターエッグ講習会1日目(於:信徒会館)
		17:00	主日徹夜祈 福音経:ルカ24:12~35
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
28(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	大齋第二主日(聖グリゴリイ・パラマの主日) 第5調 聖大ワシリイの聖体礼儀 誦経:下田兄 使徒経:エウレイ1:10~2:3/福音経:マルコ2:1~12
		13:00	執事会／イースターエッグ講習会2日目(於:信徒会館)

3月の奉事・行事予定

3月1日(月)より【大齋第三週】			
2(火)	函館	17:00	晩堂大課
3(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
4(木)	函館	17:00	晩堂大課
5(金)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
6(土)	函館	10:00	聖金ロイオアンの聖体礼儀／リテヤ(永眠者の記憶)
		17:00	主日徹夜祈(十字架の俸出) 福音経:ルカ24:36~53
	上磯	19:00	主日晚課代式祈禱
7(日)	上磯	10:00	主日代式祈禱
	函館	10:00	大齋第三主日(十字架叩拝の主日) 第6調 聖大ワシリイの聖体礼儀 誦経:吉川兄 使徒経:エウレイ4:14~5:6/福音経:マルコ8:34~9:1 ※聖体礼儀の後、3月の聖名祭モレーベンを行います
		13:00	信徒学びの会／婦人会／教会学校
8日(月)より【大齋第四週】			
9(火)	函館	17:00	晩堂大課
10(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		13:30	「教会のロシア語」勉強会
13(土)	上磯	19:00	主日晚課式
14(日)	上磯	10:00	主日聖体礼儀
	函館	10:00	大齋第四主日(階梯者聖イオアンの主日)代式祈禱 第7調 代禱:下田兄/誦経:中居兄 使徒経:エウレイ6:13~20/福音経:マルコ9:17~31
		11:00	聖歌練習
		13:00	執事会(司祭が上磯正教会より帰堂後に行います)/聖歌練習

3月15日(月)より【大齋第五週】			
16(火)	函館	17:00	晩堂大課
17(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
20日(土)～22日(月・祝) 北海道ブロック聖歌研修会(於:函館正教会)			
20(土)	函館	13:00	聖歌研修会1日目
		17:00	主日徹夜祷(主教祈祷) 福音経:イオアン20:11～18
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
21(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	9:00	大齋第五主日(エジプトの克肖女聖マリヤの記憶) 第8調 聖大ワシリイの聖体礼儀(主教祈祷) 誦経:下田兄 使徒経:エウレイ9:11～14/福音経:マルコ10:32～45
			※聖体礼儀の後、春の総パニヒダを行います ※各自、糖飯と記憶録をご持参下さい
		13:00	聖歌研修会2日目
22日(月)より【大齋第六週 聖枝週間】			
22(月)	函館	9:00	聖歌研修会3日目
	上磯	19:00	春の総パニヒダ(※各自、糖飯と記憶録をご持参下さい)
23(火)	函館	17:00	晩堂大課
24(水)	函館	10:00	早課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		19:00	会報編集会議
27(土)	函館	10:00	ラザリのスポタ聖体礼儀
		17:00	聖枝祭徹夜祷 福音経:マトフェイ21:1～11、15～17
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
28(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	聖枝祭聖体礼儀(聖金ロイオアン) 誦経:下田兄 使徒経:フィリップ4:4～9/福音経:イオアン12:1～18
		13:00	大掃除(聖堂内と信徒会館を清掃します)
28日(月)より【受難週】			
29(月)	函館	10:00	聖大月曜日 時課・晩課・先備聖体礼儀
30(火)	函館	10:00	聖大火曜日 時課・晩課・先備聖体礼儀
31(水)	函館	10:00	聖大水曜日 時課・晩課・先備聖体礼儀



《イースターエッグ講習会のお知らせ》



今年も復活祭が近づいてきました。イースターエッグの手法の一つとして有名な「ウクライナ卵」を自分で作って見ませんか。函館ハリストス正教会では下記の要領で講習会を行います。是非ご参加下さい。

日時:2月27(土)・28(日)
※2日間で一つのエッグを作成
時間:午後1時～4時
場所:函館ハリストス正教会信徒会館
会費:実費(300円程度)

講師:イオアン盛田兄、アンナ下田姉、ニコライ松井兄、ユリヤ松井姉
申込:信徒の方は教会まで。

(市民の方は、はがきに住所、氏名、年齢、連絡先を明記の上、教会宛に送って下さい。)

※希望者多数の場合、第二回講習会を別の日時で設定する予定。